

高校生が考える家庭科を学ぶ意義（全国調査より）

高校生調査の概要

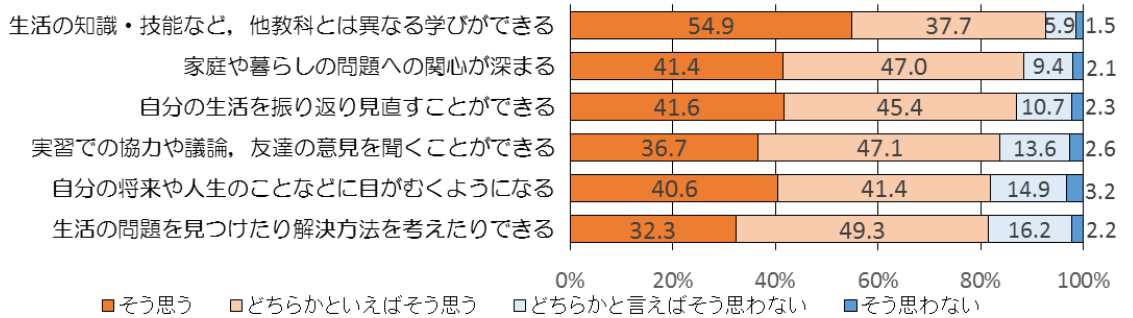
(1) 調査方法・分析方法・分析対象

- 調査期間：2016年7月～2017年1月
- 調査対象校：全国の国公立全日制高等学校50校に在籍する4,980人の高校生
- 分析対象人数：質問項目の完全回答者4,302人

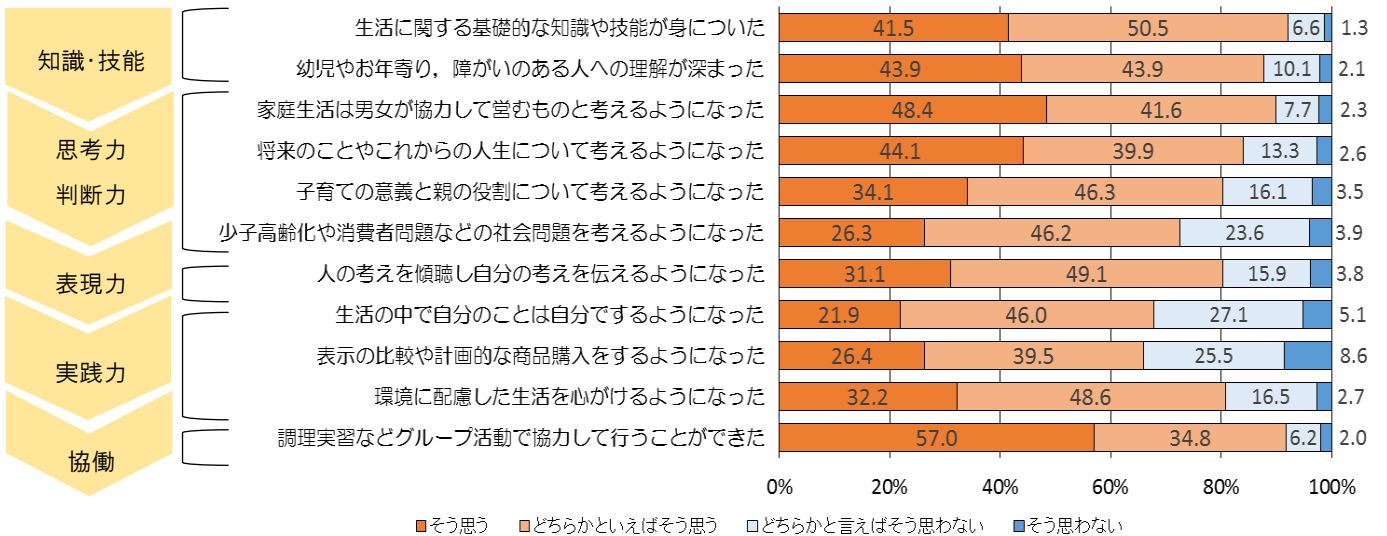
(2) 調査内容

- 家庭科観（10項目）
- 身についたと考えている力（11項目）
- 生活に関する実践や意識（48項目）
- 計69項目

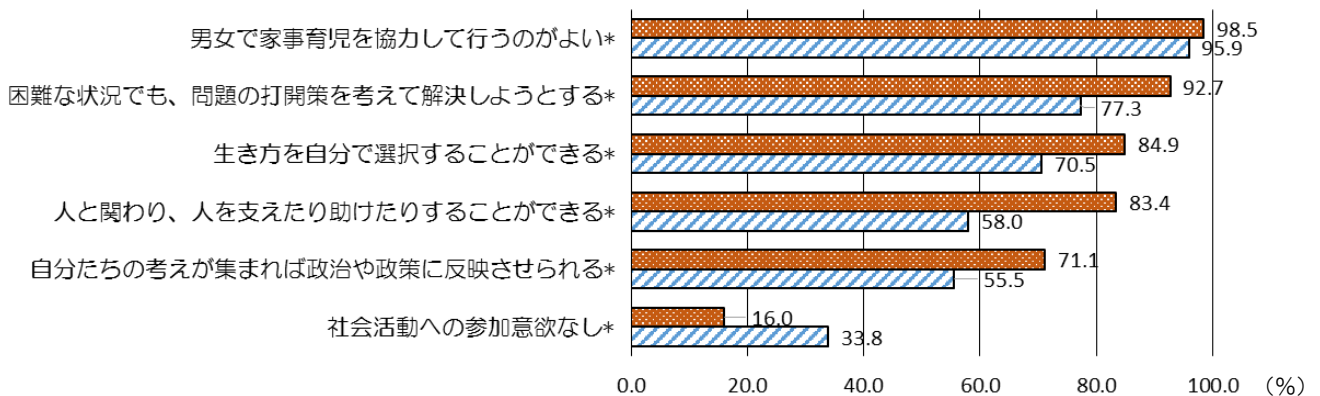
1 高校生は、他教科とは異なる学びに、家庭科を学ぶことのよさを感じている。



2 家庭科で知識・技能、思考力・判断力・表現力、協働など生きる力を身につけている。



3 家庭科で身についた力が高いと考えている高校生の方が、生活に関わる意識も有意に高い。



* 統計的に有意な差がある項目

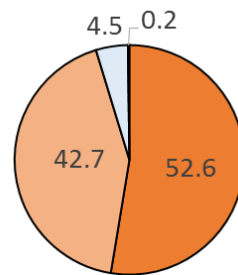
■ 身についた力が高い

□ 身についた力が高い

社会人(男女)が考える家庭科を学ぶ意義（全国調査より）

社会人調査の概要

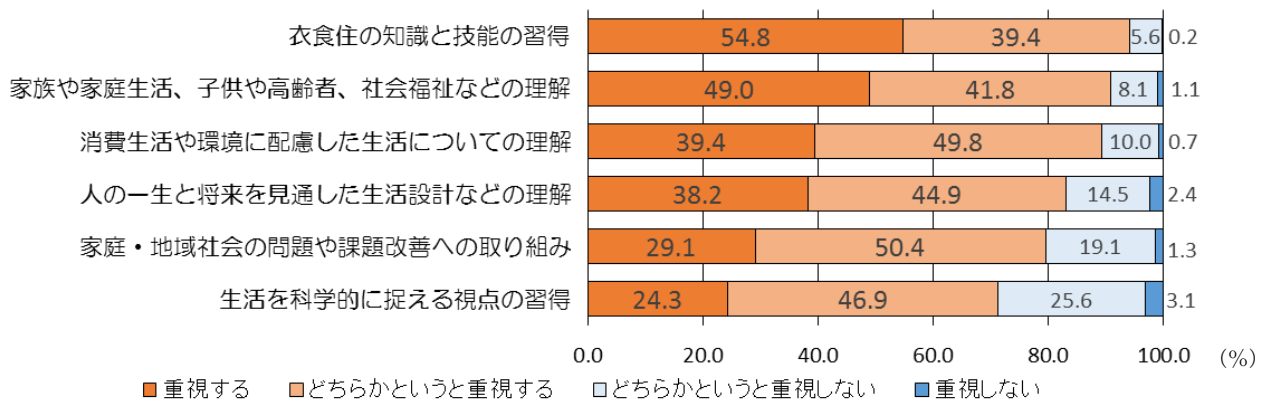
- (1) 調査方法・分析方法・分析対象
- 調査期間：2016年7月～11月
 - 調査対象：全国の20歳以上の社会人1,266人
 - 分析対象人数：高等学校家庭科履修の有無が分かる972人
完全回答者827人を統計分析の対象
- (2) 調査内容
- 属性（年代・性別や高校時代の家庭科履修の有無など）
 - 高校時代の家庭科観（8項目）
 - 現在の家庭科観（12項目）
 - 生活に関する意識や実践（17項目） 計37項目



95%を超える人が家庭科を学んでよかったと考えている。

- 学んでよかった
- どちらかというと学んでよかった
- どちらかというと学んでよかったとは思わない
- 学んでよかったとは思わない

1 社会人は、家庭科での学びの重要性を理解している。



2 社会人は、男女がともに家庭科を学んだよさを実感し、さらなる期待を寄せている。

（以下は、男女必修で家庭科を学んだ世代の記述です。）

- 料理、裁縫などの家事について得た知識・技術は、その後、特に一人暮らしの時に、とても役に立ったので、学んでよかったと実感している。同時に、もっと学んでおきたかったと思うことでもある。（男性）
- 家族や家庭生活、子どもなどについての理解を深められたことは、今になって生きていると感じます。もう少し、高齢者問題、福祉について当時においても意識を高めて学習すればよかったと感じます。（男性）
- 家庭における男女の役割は性別に関係なく、協力し合う姿勢について、具体的に考える機会になっており学んでよかったと思う。（男性）
- 自分の日々の私生活について見直すことができたり、今後の将来について考えることができた。地域活動など、どんなことを行っているか分かり、参加してみようと思った。（女性）
- 男性も家事を担う当事者であるという意識を覚えてほしい。共働き子育て 世代、要介護の人がいる世帯の生活などを事例を交えて教えるなど。（女性）
- 裁縫も、家庭科があったからこそ基本的なことができるようになったのだと思います。洗濯の仕方など、日常生活で役立つことを教えて頂きたいです。（女性）
- フィールドワークで学校周辺の環境について取材、調査しプレゼンしました。多角的に物事を捉えることの大切さに気づけました。（男性）
- ローンや利息の話、出産子育ては高校生の頃は実感が持てない領域でしたが、今となってはしっかり学んでおけばよかったと考えています。（男性）

※高校生及び社会人に行った全国調査結果の詳細は、以下の論文、書籍に紹介しています。
『未来の生活をつくる－家庭科で育む生活リテラシー』日本家庭科教育学会編（明治図書）2019
日本家庭科教育学会誌 Vol.61 1-3号、2018